

第2回、3回Webオープンキャンパス(7/19、8/10) 学科相談コーナー Q&A 国際文化交流学科

Q1 入学までに身につけておいた方がよい力はなんですか？

A1

一つは、「人の話を聞く力」だと思います。先生でも親でも友達でも、他者が話すことを、「しっかり聞く」ことはどんな場面でもとても大切です。ただ、それができている人は意外と少ないです。一朝一夕に身につくわけではないので、日頃から気にかけて過ごしてほしいと思います。

もう一つは、自分のまわりの世界に目を向けること、知ろうとする態度を身につけることです。とくに国際文化交流学科で、様々な人と関わることを学んでいこうと思っている皆さんには、まず自分のまわりに関心を向け、さらには自分のまわりだけでなく、もっと広い範囲・他国のことにも目を向けてほしいと思います。そのためにも、新聞というのはとても良いツールです。日常的に新聞を読むくせがついているといいですね。

Q2 国際関係学の様な内容も学ぶことはできますか？

A2

国際関係学といっても様々なものがありますが、教養科目に「国際関係論」という授業があります。学科の専門科目「多文化共生論」では、「人と人との共存」をテーマに、異文化を理解する方法を身につけ、差別や排除でなく、異なる文化的背景をもつひとたちが「共に生きる」ために必要な社会的条件について考えます。さらに、国際文化専攻では「国際社会と共生」という授業もあります。

国家間の相互理解や平和構築という点でいえば、様々な文化や異文化の人との交流の仕方、多文化共生の方法を学ぶことも当てはまりますので、学科の多くの授業が該当するとも言えます。

Q3 先生は熱心に指導していただけますか？

A3

熱心に指導しています！

担任制をとっており、各クラスの担任教員が、勉学・学校生活・就職活動など、入学から卒業までしっかりサポートしています。

オフィスアワーという時間もあり、教員はこの時間帯、学生の相談に応じるために研究室にいます。授業の相談など、自由に研究室を訪ねて学習のサポートを受けることもできます。

その他、基本的に専任教員はいつでも学生の学習サポートができるようにしていますので、気軽に相談や質問ができる環境が整っています。

Q4 鳥取短期大学にしかない強みは何ですか？

A4

まず、学科名にもあるように「交流」に力をいれている点です。まずは自分のまわりの人々、クラスメートや上級生とのより良い交流を授業や行事を通して学んでいきます。そして、地域に出かけたり、海外の人との交流の機会、海外研修などを通して、実践的に交流を学ぶことができるのが、強みです。

さらに、大学の規模が小さいので、教職員との距離が近いのも強みです。距離が近いことで、教職員は学生一人一人の顔が良くみえ、サポートもしやすく、学生はより気軽に相談したり、研究室を訪ねたりできるのではないかと思います。このようなことの繰り返しで、教職員と学生の良い関係が作れているのではないかと思います。

Q5 授業のレベルはどのくらいのものでしょうか？

A5

一概には言えませんが、例えば学科の専門科目も入門から応用へと段階的に組み立てられています。また、学科の一部英語の授業では、クラスをレベル別に分けることで、学生が学びやすく、力を伸ばせるようにしています。

それぞれの授業におけるレベルは、授業のシラバスが公開されていますので、シラバスの「到達目標」をご覧くださいただければおよその目安になるかと思えます。